

★授業のヒント

ぜんかい ころさい
 前は、交際をテーマに「あいさつ」のことは取り上げまし
 た。今回は、季節のあいさつのはがきやカードを紹介します。

テーマ 交際 ②季節の手紙

もくてき おし 目的・教えること
・簡単な季節のあいさつの手紙が書けるようになる。 ・日本のあいさつの手紙の習慣を理解する。
がくしゅうしや 学習者のタイプ
しょきゅう 初級～
クラスの種類
なんにん 何人でも
じゆんび 準備するもの
はがきの大きさの紙 (10.4cm × 14.8cm)、サイ ンペン、色えんぴつ、色紙など。次ページのイ ラスト集をコピーして、切って使ってください。

1. 導入

日本では、お正月や夏に先生や友だちにあいさつの手紙(はがき)を書きます。また、人によっては、誕生日のお祝いカードやクリスマス・カード、入学や卒業、結婚のお祝いなどのカードを書く人もいます。先生が日本の年賀状や暑中見舞いなどののはがきやカードを持っていたら、学生に見せてください。そして、学生に、どんなときにこのようなあいさつのカードを書くか、どんなあいさつのことを書くか聞いて、自分たちの習慣を話し合ってみましょう。

2. はがきを書く

先生があいさつのことばとイラストを紹介して、学生にはがきを作らせます。いろいろな組み合わせを考えて、楽しい授業にしましょう。中級以上のクラスでは、下の説明文を読解の練習に使ってもいいでしょう。

説明文：「年賀状と暑中見舞い」

日本では、お正月には年賀状、夏には暑中見舞いの手紙やはがきを出します。年賀状は、元日(一月一日)から数日の間に届くように出します。元日より前に届かないように気をつけます。毎年、お正月には約40億枚もの年賀状が日本中に配達されるそうです。年賀状には新年のあいさつといっしょにその年の干支(注)の絵や、家族の写真などが印刷されていて、お正月の楽

しみの一つとなっています。

一年に一度、遠く離れた友だちのようすを知ることができる大事な習慣です。

暑中見舞いは、梅雨が明けてから立秋(注)(八月八日ごろ)までの間に出します。夏休みの旅行先から親しい友だちなどに出すこともあります。

(注)

干支：むかしの中国の年の数え方。正しくは十干十二支をさしますが、今では十二支のこととして使われています。十二支は、12種類の動物からできていて、ある年やある人が生まれた年をさすときに使います。たとえば、1997年はうし年です。また、1990年に生まれた人はうま年生まれといます。動物の種類と順番はイラストを見てください。

立秋：太陰暦(旧暦——むかしのカレンダー)では、この日から秋が始まると言われていました。現在のカレンダーでは、八月八日ごろにあたります。

97年
元旦

あけまして
おめでとーございます
今年もよろしく
おねがいします。



暑中お見舞い
申し上げます

毎日暑い日が続きますが
お元気ですか。



97年 夏



使うことば

【年賀状】お正月のあいさつのはがき

- ・あけましておめでとう（ございます）
- ・新年おめでとう（ございます）
- ・今年もよろしくおねがいします
- ・今年もいっしょに～しましょう

【暑中見舞い】夏のあいさつのはがき

- ・暑中お見舞い申し上げます

・毎日暑いですが、お元気ですか。

【誕生日などのお祝いのカード】

- ・お誕生日おめでとう（ございます）
- ・ご入学おめでとう（ございます）
- ・ご卒業おめでとう（ございます）
- ・ご結婚おめでとう（ございます）

イラスト集

年賀状用



（このイラストは著作権フリーです。自由にコピーしてお使いください。）

暑中見舞い用



参考文献

- 「モジュールで学ぶよくわかる日本語 (Japanese in Modules)」コーベニ澤子他著（アルク）
- 「らくらく日本語ライティング (Writing in Japanese is Fun)」田口雅子著（アルク）
- 「たのしく読める日本の暮らし12か月 (Moons, Months and Seasons-A Pre-intermediate Japanese Reader)」国際日本語研究所編（杏文堂）
- 「日本を知る一その暮らし365日」板坂元著（スリーエーネットワーク）
- 「日本語の手紙の書き方 (Writing Letters in Japanese)」アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター編（The Japan Times）
- 「体験しよう日本の文化 (Experiencing Japanese Culture - An Activity and Q-A Approach)」KEK 国際交流会編著（杏文堂）

今回は、「季節の手紙」をテーマにして授業の方法を考えました。
実際に、学生と年賀状や暑中見舞いを交換してみてください。

それでは、また。

このコーナーの担当：久保田美子、八田直美（日本語国際センター専任講師）

